

美空 ~MISORA~

第116号

発行日:2018年12月31日

発行者:NPO法人 電線のない街づくり支援ネットワーク
理事長 高田 昇

【活動報告】

■12月度 大阪理事会

2018年12月17日 18:00~19:00

COM計画研究所

出席者:高田理事長、井上事務局長、伊津理事、井上理事、佐伯理事、(オブザーブ参加) 棚原氏、林氏、阿南氏、(事務局) 井上承、塚田

①11月のセミナー・講演会の振り返り(井上事務局長)

・11/20(火)東京活動委員会・東電設計:野田氏の講演
→参加者54名。うち東電グループが9名

・11/27(火)トークイン in 大阪→参加者57名

・12/7(金)北海道セミナー→参加者164名(暫定)。うち行政関係者が101名。101名中73名が北海道開発局からの参加

・12/12(水)トークイン in 東京

→参加者82名。リストでは82名だが、当日はそれよりかなり少なかった。講演自体はよかった。会場の参加者も満足されているようだった。12月はやらないほうがいいかもしれない(井上事務局長)。

→12月の昼間はかなり厳しいと思う。夕方のほうがよかったかもしれない(伊津理事)。

②各支部報告(井上事務局長・伊津理事・井上理事)

・北海道活動委員会、12/6(伊津理事)

→今年は北海道での災害が多すぎた。当初(10月)は、地方自治体関係者を集めてセミナーをすることが目的だったが、9/6の北海道胆振東部地震でのブラックアウト以降で状況が厳しくなった。セミナー当日は160名以上の参加をいただいたが、開発局(国関係)が殆どで、地方自治体関係者は数えるほどしかいなかった。6日も悪天候で、松原副理事長が来られなくなり、地元関係者は残念がっていた。東電設計の野田氏に2日も話してもらう結果になった。

・東京活動委員会、12/20(木)予定。前日集計32名に(井上事務局長)忘年会も兼ねる。

・大阪活動委員会、1/29(火)予定

→CTIウイング:下原様(トークイン in 大阪参加)、東神電気:高橋様(無電柱化推進展に会場)オブザーブ参加予定。エバタ様ともう一社で検討中。無電柱化じゃないところから、無電柱化に結び付ける形で進めたい(井上理事)

・中部支部勉強会、1/25(金)予定

・沖縄活動委員会、1/28(月)予定

・民間WG

→19アイテムがエントリーして、報告。低コスト化と繋がりがづらい3つが落ちて16アイテムで「手引き」をまとめている。「地下情報の管理」において、「直

接埋設をする際」に限定していることを全体にはどうかという意見が出ている。

③事務局からの報告・議案(井上事務局長)

・萩原亨(ハギワ トル)・北海道大学大学院工学研究院教授に当NPOの顧問を要請

→環境政策が専門。安江顧問からのご紹介

・理事の要件について

→理事会・活動委員会等に出席されていない理事の方がおられるので、理事の要件を決めて促したい(井上事務局長)

→理事としての職務を果たすためには2回に1回くらいは来てほしいが、最低3分の1は出席をお願いしたい(総意)

→理事会・活動委員会の出席も大事だが、地元のシンポジウムやイベントに出席していただくことは、更に重要。地域の代表としての職務を果たしてほしい(伊津理事)

→事務局として素案を作成し、理事長、各理事に報告・検討・周知する。

・その他情報

→荒川区、街づくり勉強会に参加(井上)

→みち研主催のアジア視察会でのメンバーが定期的に集まる機会をもつことになった。1/30に無電柱化推進部会の会合をする予定。その際、無電柱化の駆け込み寺の窓口について相談できればと思う(井上事務局長)

④今年の振り返り(高田理事長・各位)

林氏(共和ゴム):今年のイベントは、ほぼ参加させていただきました。寺阪(理事)の代理で発言権的に弱い立場での参加となりました。来年NPOで予定している中四国でのイベントも会員企業として積極的に参加する予定です。寺阪(理事)にも会合・イベントへの参加を促していきたいと思います。

井上理事:大阪活動委員会を中心にNPOに携わりました。2~3か月に1度、各メーカー様の製品紹介に対して、ガチな議論になったこともありました。それはそれでいいことだと思っています。今後も「継続は力なり」で頑張っていきたいと思います。

伊津理事:今年は中部地区を中心に話のできるグループをつくろうと中部地区、北陸地区の二つの地区をまとめられたのはよかった。10月に開催した北陸シンポジウムを起点として今後も北陸の会員企業を増やしていきたい。各地区でセミナー・シンポジウムを行うという目標も実行できた。ただ、今後のシンポジウムは、同じネタ・手法ではいけないと感じる。新しい手法も検討しながらシンポジウムの開催を継続していきたい。会員は、現在160とうかがっている。200を目指していきたい。

佐伯理事：理事に就任して半年になる。その間、以前にもまして情報の広がりが増えた感がある。ただ、情報を得たら得たで、課題や問題点もみえてきた。電力・通信会社との対応も含め、それらの問題点をどう解決していくかに焦点をあてていきたい。中国地区の企業として、中部モデルのような組織を目指していきたい。

塚田（事務局）：今年は、あっという間の一年だった。事務局として、会員企業様への情報提供やシンポジウムに代表される様々なイベントを行って情報を発信した。無電柱化推進展では、地方自治体向けの小冊子を配り、11月には無電柱化の日に合わせてブックレットを刊行した。しかし、まだまだ市民への無電柱化の意識は変わっていない。来年も引き続き、様々なアンテナをはって情報発信していきたい。

井上承（事務局）：無電柱化推進法が施行されて2年が経ちましたが、まだ行政もどう進めていいのかわかっているところが多いのか目に見える形で進んでいるところが少ない。高田理事長が提案された無電柱化の相談窓口的なものをNPOで活かせられたらいいと考えています。

井上事務局長：シンポジウムやセミナーが名古屋、北陸、北海道、宮古島と各地域で開催できた。中部支部が新たに立ち上がり活動できていることもよかった。国交省・国会議員との連携も強化され、NPOを頼りにしてくれている部分もある。「占用」の問題がガラッと変わるとはならないかという情報もあり、「占用」をテーマにするものいいと考えている。事務局としては、ホームページの更新や体裁を一新して充実させた。当NPOのホームページを開いたら、無電柱化に関する動画や資料、最近の動向が分かるようになっている。是非皆さんも見てほしい。また、NPOのホームページを是非会員企業様のホームページにリンクを貼ったり、メールに貼って拡散してほしい。

相談窓口の件、みち研のアジア視察チームを定期的に活動することになっている。そこに組み込められればソリューションできるのではないかなと思うので、案を投げかけたい。

高田理事長：まずは、内側から。今年一年、会報誌の「美空」やホームページは、以前に比べて各段によくなっている。ブックレットも刊行することができたので活用して欲しい。NPOとして社会的市民権が確立して、今年はマスコミ取材も増えた。ただ井上事務局長・事務局職員・伊津理事に仕事が集中している。仕事の分散をして自ら動く理事を増やしていかないといけない。今年のスローガンは、「無電柱化をすみずみまで」だ。今年一年マスコミの取材もよく受けた。来年は九州でもシンポジウムが開催される。一般市民への周知がまだまだ進んでいないが、課題は見えてきた。

無電柱化の手法も小型BOXや直接埋設などが実施、検討されているが、肝心の低コスト化（コストダウン）が実現されていない。電力会社との関係も敵対関係では進みようがない。どう上手に作り上げていくか真剣に考えて連携できるように仕向けて行かないといけない。無電柱化を進めるためには、まず地方自治体が動かないといけない。計画と条例をセットで作っていないところが多

い。つくば市や芦屋市など進んでいるところは進んでいるが、素知らぬところは何もしていない。全国の自治体は1741あるが、10%にも満たないのではないかな。「無電柱化を推進する市区町村長の会」（首長会）の加盟数は290。全自治体の6分の1だ。自治体トップへの働きかけ、ナンバー2までにはたらきかけることが重要だ。

⑤来年度の方針（井上事務局長）

- ・来年度の方針は、「地域とのつながり」をテーマに検討する（高田理事長）
- ・年明けから各支部別に来年度の方針を検討してもらう（井上事務局長）

⑥九州勉強会（伊津理事）

→2/18を予定。九州シンポジウムへの布石

※会議終了後、忘年会

→九州シンポジウムを開催する際、大分県の別府や由布院（景観・観光地での無電柱化）も視野に入れて検討してもいいかもしれない（高田理事長）。

→安江顧問の関係で、JR九州の関係者にご協力いただけるかもしれない（伊津理事）。

■次回の理事会

1月29日（火） 18時～19時：大阪理事会、19時～20時30分：大阪活動委員会。その後、交流会を予定
場所：大阪市総合生涯学習センター

■12月度 東京理事会

2018年12月20日 18：00～19：00

経団連会館C5会議室

理事会前の談話

井上：佐原の件だが飲食代の領収書さえもらえれば街並み委員会の会計の件は問題ない。高山印で問題ない。

伊津：会社によって落ちるかどうかが問題である。

井上承：何人参加といくらかがわかればいい。

理事会

・理事について

井上：大阪で議案として出した「理事について」。参加できていない理事をどうするか。会が拡張して理事の定員等考える必要がある。今のままでいいという意見はもちろん受け入れる。

伊津：代理出席を認めるかどうか。大阪が問題である。

井上：しかし代理は代理させた本人の意思が伝わりにくい。

伊津：「出席回数指定」は支部によって回数が違うので理事の存続が簡単になりすぎる支部が出てくるのでは。

井上：それは考える。

前川：私はこの案に賛成。

伊津：隔月出席が厳しいところもある。原則の言葉を入れてほしい。

佐々木：ルールとして作るのではなく個別で出席を促してみるのはいかがか。

伊津：もしくは寺阪さんの代理の林さんをいっそのこと理事にするのはいかがか。

佐々木：それの方がいいかもしれない。

伊津：NPOが決裁をしないから理事の出席があまり重きを置かれていないのかもしれない。

高山：名誉理事が必要か？

井上：私としては、ルールを明文化した方がいいと思っただけ。皆さんが反対ならそれで構わない。

伊津：松原先生を例外にして進めた方がいいと思う。

井上：そういう方向で考えておく。

・九州シンポジウム

伊津：5月の宮坂先生の空いている日にしたい。松原先生が国会終わってからにしてほしいというならそうする。東北は盆明けの開催を狙っているがイワテックと電力会社が調整している。

佐々木：フォーラムを立ち上げる前提なのか。

井上：そういうわけでもない。

伊津：イワテックは人集めを手伝ってくれるそう。

佐々木：もっとしがらみのない人に頼んでもらった方がいいのでは。

伊津：東北は小方さんに聞かないとわからない。小方さんの知り合いの人に動いてもらいたい

佐々木：仙台と九州はどちらか。

伊津：九州。ひとつずつやらないと手が間に合わない九州は7~8社がすでに集まっている。宮内先生次第。

佐々木：なぜ宮内先生が必要なのか。

伊津：選挙区だから。2月には様相が決まってくる。

・来年の予定

井上：3月に高田理事長に近畿地整からオファーが来ている。

伊津：広島がやる方向らしい。

井上：東京・大阪・名古屋はやはりシンポジウムをやりたいが、スケジュールが厳しい。

伊津：欲をかかずに50~100名にした方がいいと思う。

佐々木：ネタ切れが深刻だと思う。飽きられてきたのではないか。

伊津：市区町村長の会の埼玉県の人が引き気味では？奈良県の山下さんとは違う。

伊津：全国にある程度話ができるところまでできてきた。

井上：首長会にも連絡とっていく。

佐々木：一般の人と業界人は完全に区別して考えなければいけないと思う。

伊津：業界の人に手引きを広めるためにシンポジウムを開催したい。

伊津：来年5月九州、8月東北、11月中国、再来年2月四国。これらを機に会員拡大していきたい。

■12月度 東京活動委員会

2018年12月20日 19:00~20:30

経団連会館C5会議室

・あいさつ

佐々木理事：来年はよい年になってほしい。無電柱化は消化不良の部分もあるが少しずつ前進している。

・懇親会に関して

高山理事：宴会に関しては、キャンセル料が発生するようにした方がいい。

・民間WG

伊津：この前の部会のお話をずっとしていた。後半は手引きの精査、日程的にどういう風に進めていくかも考える。地図情報に関して提案していた。次回で一区切り、ワーキンググループは終わるという形になっている。

井上：部会で検討している内容は電力WGが小型BOXをどういう風に標準化していくか、またその検証をしている。実際深さ500になると作業が大変なので400程度になると思う。また行政向けに手引き案が作られている。通信WGでは立上管を一本化できないかということを検討している。コンサルWGは既存の側溝を活用できないかということを検討中。現実的には少し厳しそう。

・大阪ブックレットトークインに関して

井上：100名ほど入る会場でほぼ満員。関電、先斗町、芦屋市、理事長で開催した。芦屋市の発表は官民連携の最新情報を話してくださったので有意義な会と言える。

高山：先斗町は見に行けるのか。

井上：見には行けるが寒いからやめた方がいい。

・北海道に関して

伊津：最初行政のみという話だった。行政で100名程度、開発局が8割だった。北海道の札幌市、美瑛市、登別市が来てくださった。災害続きで年末なので少し厳しいと思われる。事業者とどうい話をしていくかという道を考えていかなければならない。

・東京トークイン

佐々木：東工大、白馬村、つくば市、東電に来ていただく。屋井先生は本音トークでコンパクトながら面白い会だった。本自体も非常に評判がいいので推薦してほしい。

・今後の予定

伊津：各地区で北陸・名古屋の2か所でやったが来年は3か所を考えている。GW明け月曜日に九州福岡で完済する。次に8月盆明けに東北仙台で開催。11月の末が広島で開催予定。再来年の2月で四国をやりたい。これでシンポジウムを全国でやったことになる。九州は八仙閣にて50名規模で無電柱化の勉強会を開催する予定。九州に知り合いがいる人はぜひ声掛けしてほしい。

・パネル展

木村：明日、千代田区役所でパネル展を開催する予定。昨年の日本橋でも同じことをしている。無電柱化の日のイベントの一環で行っている。資料がたぶんおけるのでリーフレットを置いてもらうように働きかけるつもりだ。

・情報提供 エイテック「電力ケーブル敷設」

電力ケーブルに水を使って敷設する。63%敷設時間短縮。日本にはこれに向けたダクトがない。

質疑応答

井上：ポリエチレン管を使っているのか

→あるはあるが、一般的ではない。

・事務局から

井上：HPに力を入れているので是非見てほしい。皆さんの製品で掲載してほしいものがあれば相談してほしい。営業活動に使えるものもあるので使ってほしい。

・街並み委員会

商家町佐原

質疑応答

なし

高山 次回予定はとある住宅地、普通の半値でやったそう。ほかにもつくば市を考えている。

次回

<https://nponpc.net/calendar/> パスワード:nponpc

「無電柱化ブックレット」 発刊記念トークイン in 東京(12/12) 新宿文化ホール



トークイン前の無電柱化ブックレットの紹介で壇上に立つ井上事務局長

12月12日(水)、東京・新宿の新宿文化センターにおいて「無電柱化ブックレット」発刊記念トークイン in 東京が開催されました。当NPOの佐々木東京支部長の開会の挨拶、国土交通省道路局環境安全・防災課長の野田学様の挨拶のあと、いよいよトークインがスタートしました。



佐々木東京支部長

■ 井上事務局長のブックレット紹介 (写真上)

冒頭に今年起こった数々の災害を、画像を通して紹介。6月の大阪北部地震、その直後に起こった滋賀県米原での竜巻、7月の西日本豪雨では、188,000戸の停電、通信障害は、実に124,000回線に及んだ。後に発表された中国電力の被害総額は45億円で、業績にかなりの悪影響が出た。9月4日～5日にかけての台風21号。西日本をはじめ広範囲に被害が広がる。停電は、2,615,360戸。通信障害は各社多数。井上事務局長も家から一歩も出られないほどの恐怖、猛烈な風によって家が揺れることを初めて体験したと語った。電柱も1700本が倒壊した。その後、9月10日に大阪の議員団が安倍総理に陳情に行った。総理も「無電柱化は喫緊の課題だ」と発言した。11月12日に行われた経済財政諮問会議でも、**石井国土交通大臣から国土強靱化が議論された。**

11月24日には、**2025年に大阪万博が開催されること**が決定！大阪府の無電柱化推進に弾みがつくことになるでしょう。

このような最近の情勢を受けて、当NPOでは11月10日

の無電柱化の日に合わせてブックレットを発行しました。その名も『**見あげたい日本の空 ★復活へのシナリオ 無電柱化の時代へ**』。

64ページと手軽なページ数でお値段も800円(税抜き)とお求め易くなっているので、是非ご購入・ご紹介下さい。

<https://nponpc.net/npo%E7%B4%B9%E4%BB%8B/%E7%84%A1%E9%9B%BB%E6%9F%B1%E5%8C%96%E5%85%A5%E9%96%80%E6%9B%B8%E3%81%AE%E3%81%94%E7%B4%B9%E4%BB%8B/>

■ トークインの開幕

屋井鉄雄先生(東工大副学長) 実は、2016年12月に無電柱化推進法と同じ日に議員立法で、**自転車活用推進法**という法律が施行されました。これは、3K(キツイ・キタナイ・キケン)が3K(環境・観光・健康)にかわる画期的な法律です。無電柱化推進法をこれに当てはめて考えてみると**3C**になると言えます。下から説明していくこととなりますが、**③コンセンサス(合意形成)**、**②コスト**、**①コモン(共通)**の三つです。

①のコモンは、少し説明がいろいろありますが、私は「電気料金を上げて無電柱化をしよう」と考えています。このような考えに賛同していただく、あるいは、「賛同しなくても無電柱化はしたほうがいい」と共通の認識をもつことです。

私は、井上さんも一緒にしましたが、9月に4日で4カ国の海外視察をしてきました。その後もアジアの都市を見てきましたが、その国々のお国柄を反映しながらも無電柱化を進めています。



野田環境安全・防災課長



屋井先生

◎各登壇者の紹介とともに、それぞれの講演

小林遼平氏（つくば市都市計画部市街地振興課学園地区市街地振興室 主査） 講演された小林氏も父親の仕事のご都合で幼い頃からつくば市に住まれ、電柱のない街を見慣れておられたという。

そのようなつくば市ですが、東京から約 50km、空港のある成田から約 40km に位置する。人口は約 24 万人。うち外国人が 9,511 人。中国・韓国・ベトナム・フィリピンを中心に 137 カ国の人々が居住している。毎年 2～3 千人増加。2036 年まで人口増加が続くと見込まれている。つくば



小林氏

市は計画的につくられた都市であるとともに、様々なまちづくりに取り組んでいる。パブリックスペースの活用（カヤックが乗れたり、バーベキューができたり）、緑住農一体住宅（芝生のある住宅地）、地区計画等による街並み（セグウェイが利用できる道路）など。



■なぜつくば市は条例を制定したのか？

平成 28 年 9 月 30 日、日本で初めて無電柱化条例を制定した。つくば市国は、もともと計画的につくられた街で電柱そのものが無かったところから、国家公務員宿舎の売却など、新たな街並みが形成されるところに電柱が建ってきた。

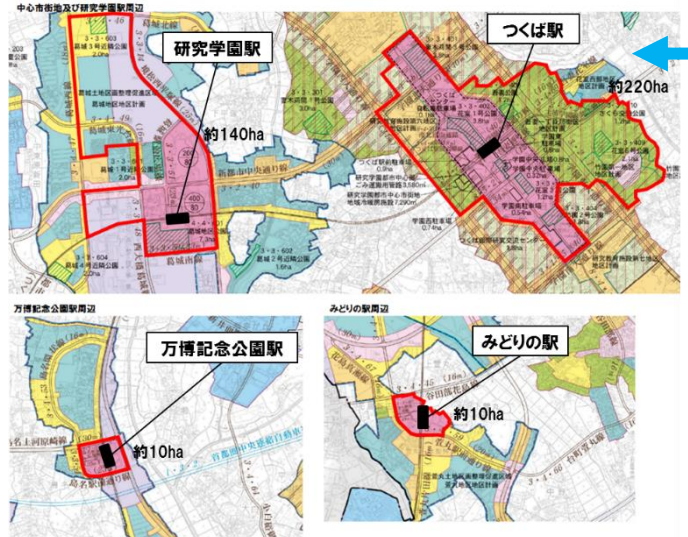
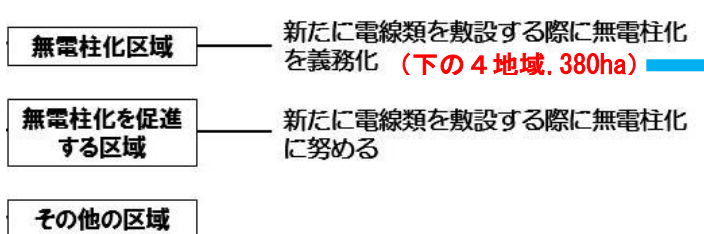
そこで、特定のエリア内で新規開発等を行う際に、電線類を敷設するときは、電線類を地下に埋設することを義務化する条例を制定した。ポイントとしては、

- ①点、線ではなく、面で無電柱化を誘導
- ②道路だけでなく、民地についても制限
- ③既存電柱を抜くのではなく、新設電柱を建てさせない

■更に抜け道をつらせないように

- ①新たに電線類を敷設する際の決まり（既存の電柱は対象外）
- ②公共用地のみでなく民地に対しても制限
- ③電線類等を敷設する者すべてが対象
- ④地中化設備の構造や管理等は定めていない
- ⑤無電柱化の際の弊害についても対応（街灯の設置を義務化。無線柱化されたら街が暗くなるという意見から）

■制度の仕組み



■ 条例制定までの行程…最初から条例ありきでなかった Step 1 「研究学園地区まちづくりビジョン」などの任意計画に無電柱化を記載⇒法的拘束力がないためなかなか守られない

Step 2 地区計画など既存の制度を活用した誘導方法を検討⇒電柱は特別だった！電柱などは地区届出対象になっていない。とりあえず、地区計画の方針に記載

Step 3 開発事業者と個々に調整を実施⇒無電柱化は費用を要することから難航。多くの開発が一度に行われると対応できない。トップ（市長・副市長クラス）に言ってもらっても無理⇒調整が難航

Step 4 地方自治法にもとづく条例化

■無電柱化条例を検討するにあたり、注意したところ

- ①どこまで制限し、どこまで対象とするのが相応しいか
 - ・開発などで新設電柱をたてさせないことを早急に対応
 - ・対象は、通信をも含む電線類を敷設する行為すべて
 - ・ここでは構造の制限ではなく行為の制限、構想は別途
- ②このような制度が法令違反とならないのか
 - ・財産権の侵害にあたらぬか
 - ・公共の福祉の範囲内であるかがポイント→つくば市の住宅価格 6000 万～8000 万円で無電柱化にかかる費用が 100 万～150 万であれば、侵害しない範囲
- ③電気事業者のルール（約款）と行政との立場の違いのすり合わせにかなりの時間をかけた
 - ・ほぼ毎日のように意見交換をした。行政の立場を優先させたとして電力会社と意見が合わずに進めたとしても、結局一番迷惑を受けるのは事業者
- ④無電柱化を義務化することによる事業者の反応
 - ・後から言われるほうが困る。ルールをつくって開発するのであれば、問題なし。むしろそのほうがいい。

松沢齊氏（白馬駅前無電柱化を考える会・株式会社白馬硝子店 代表取締役） JRの白馬駅でガラス店を営んでいます。白馬村は1998年の長野オリンピックを契機に国内の観光客が減少しました。一方で、海外の観光客が増加。それは**J A P O W**と呼ばれる日本独特の極上のパウダースノーを求める観光客だ。現在では年間10万人（20万人と発表しているところもある）の外国人観光客が訪れる。しかも白馬に移住してくる外国人も多く、人口の5%が外国人移住者という状況です。人口9,000人中500人が外国人移住者。



松沢 氏

このような白馬村ですが、世界の山岳リゾートと比較すると、山々や周りの自然は、五分五分。見方によっては勝ち。一方、ふもとに降りての街並みを比較してみると、大敗です。

無電柱化をきっかけに街並みをかえたいと考え、色々後押ししていただけたところはないかと探しているうちに当NPOが発行している『電柱のないまちづくり』という本を見つけ、井上さんに相談に乗ってもらった。

2012年6月25日、当NPOと組んで白馬村で勉強会を開催。まだ無電柱化という言葉が浸透していない時代に超満員の聴衆を集めた。

このセミナーで当時の長野県知事が共鳴して下さり、「インバウンドの聖地」として白馬村を後押ししようと努めていただきました。

ところが、白馬村の駅周辺の地下には、冬の雪解け対策で地下に融雪パイプが張りめぐらされています。無電柱化するためには、それらを取り除いた上で、電線

お詫びと訂正

共同チラシ6月15日（第760号）において『白馬駅前の無電柱化を考える会有志（仮称）』の連絡先電話番号に誤りがございました。正しくは 080-4184-3600 になります。ここに訂正しお詫び申し上げます。

美しい白馬の空から鉄線のような電線をなくしたい!!

NPO法人 電柱のない街づくり支援ネットワーク 公開セミナー

日本に数少ない無電柱化のプロが、最新から伝えています。めったに聞けない貴重なお話を、白馬町だけでなく、多くの方に聞いていただけたら幸いです。

日時：6月25日(月) 17時30分～19時30分
会場：白馬町工務部会議室

参加費無料

↓
080-4184-3600

当NPOと実施した当時のチラシ

電線のない街づくり支援ネットワーク

電線のない美しく安全なまちづくりフォーラム

テレビ「ラスト開演とスピード感を持った取り組みへの行動計画」

2014年 8月27日(水) 3時～5時40分

松沢 齊氏
小川 保之氏
松沢 齊氏
松田 昇氏

地中化し、更に融雪パイプを張り直さないといけません。

ここで村民の心が折れかけましたが、景観が大切であるという意識改革を数々のフォーラムやシンポジウムを通じて訴えかけてきました（左下の写真は当時NPOと連携して行われたフォーラムのチラシ）。

これらの活動が実を結び、2017年に白馬駅前整備検討委員会(全6回)、その年の10月28日に倉本惣氏をゲストに招いてシンポジウムを行い、更に村民の意識を高めてもらいました。

その後、長野県景観条例の流れから、白馬村景観条例ができ、2018年の景観むらづくり100年白馬ワークショップ(全3回)を経て、白馬村無電柱化推進条例が6月に議会に提出された。無電柱化に伴う街並整備事業も整えられ、完成後のランドデザインも公表されている。



白馬村の街並整備事業計画



白馬村のランドデザイン（夏バージョン）

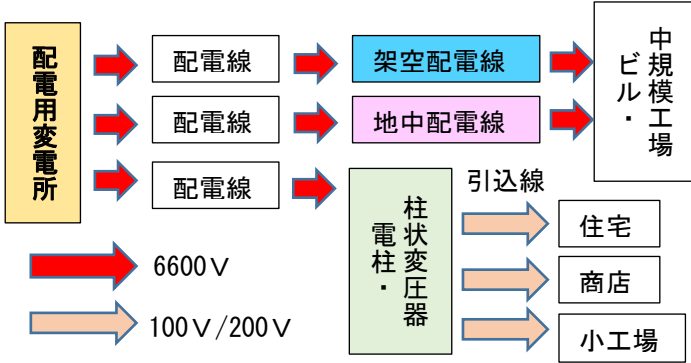


白馬村のランドデザイン（冬バージョン）

今村俊治氏（東京電力パワーグリッド株式会社配電部無電柱化推進グループ チームリーダー）

■無電柱化設備の概要

・電圧 6600V 以下の電線を配電線といい、配電線には電柱に電線を架線する「架空配電線」とケーブルを地下に埋設する「地中配電線」がある。配電線には、電気を高圧から低圧に変える「変圧器」とお客様に電気を届ける「引込線」が含まれる。



※当社（東電）の配電線は地球の約9周分の約36万km

■架空配電設備から地中配電設備へ変更概要（切替）

	電気の流れを切り替え	ご家庭に電圧を変換	電気を配分
架空配電設備	柱状開閉器	柱状変圧器	電柱・引込線
地中配電設備	多回路開閉器	地上変圧器	低圧分岐装置

■東京電力PGの取り組み（整備実績）

国の計画が始まり、約30年間（S61～H29）の整備実績は全国：約9,500kmの目標に対して、**東電PGでは約4,500kmを整備完了している。**

■東京電力PGの取り組み（整備事例）

・東京都港区「浜松町駅前」周辺

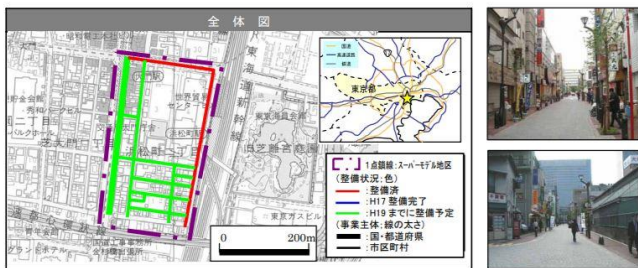


図13-4 スーパーモデル地区の一例（東京都港区浜松町二丁目地区）

国土交通省資料より <http://www.mlit.go.jp/road/ir/ir-perform/h18/13.pdf>

・埼玉県川越市「時の鐘」周辺

川越市の取り組み事例（国土交通省）

<http://www.mlit.go.jp/common/000116024.pdf>

国の計画が始まり、約30年間（S61～H29）の整備実績は全国：約9,500kmの目標に対して、**東電PGでは約4,500kmを整備完了している。**



今村 氏

■フリートーク（屋井先生から）

法律の観点からいうと、日本では、防災、安全（交通）、景観の三点を主眼にしているが、アジアでは、違う観点で無電柱化しているところがほとんどである（ここで話してしまうと、話が長くなってパネルに質問する時間が無くなるので割愛させていただきます）。

・つくば市の小林さんへの質問

Q1：つくば市では、無電柱化条例を「電柱を建てないこと」から出発しているが、防災面、安全面、景観面はどれくらいの範囲・割合で条例に盛り込んでいますか。
 Answer：全てあるが、特に景観。ただ、6年前、平成24年、つくば市で竜巻が発生し、バタバタと電柱が倒れ、緊急車両が入れないことがあって、防災面も重視している。

Q2：先ほどのお話で Step 1 から Step 4 の期間が1年足らずと聞きましたが、驚異的なスピードだと思いますが、なぜこのような短期間で、条例制定ができたのか。最初から条例を考えた上で進めていたのですか。

Answer：まずは簡単に進めていけるところからスタートして、最終的にたどりついたのが条例だった。公務員宿舎の売却とともに宅地開発が始まり、それとともに物凄いスピードで電柱が建っていった。このまま条例を待っていたらどんどん電柱が建ってしまうことから起因している。

Q3：既存の電柱は、とりあえず置いといて？

Answer：既存の電柱については費用がかかることなので、少しずつ進めていかないと考えている。ただ市民がパブコメで「電柱が無い方がよい」という意見を多くいただいているので、電柱のない街を目指していきたい。

Q4：実際にどれくらい建っちゃった？

Answer：正確な数字ではないですが、売却された宿舎60haのうち8ha分が、電柱が建ってしまった。

Q5：無電柱化された住宅地は資産価値が高くなると聞きますが。

Answer：事業者は、無電柱化するだけでなく、色んな切り口で街並みもきれいにするので全体的に景観がよくなり、価値が高まっているのだと思います。一方でそのようなアプローチをしていない土地の隣は資産が下がる傾向にあります。

屋井先生：このようなことをヘッドニックアプローチといいますが、是非、地価モデルを小林さんか筑波大学の先生にお願いするなどして数値化していただきたい。

Q6：すでに無電柱化が整備された場所の地上機器はどこに置いていますか？

Answer：民地と歩行者専用道路に整備されている。

・白馬村の松沢さんへの質問

Q1：無電柱化は防災面から入るケースが多いが、白馬村は、2012年、景観面からスタートしている。しかも無電柱化から進めている。地域地域をみていると、街づくりから入るケースが多いが、街づくりから進めたいというかた、ステークホルダーは居なかったのですか？



Answer：以前、私の親の世代では街づくり団体があったのですが、98年のオリンピックバブル、観光ブーム、ペンションブームの波にのまれ、古い古民家を大事にしようとする団体が推しきれなかった。景観・街づくりを諦めた感があった。今回、無電柱化を推進することで、私達が所属する百馬力という団体に引き継がれ、景観面での街づくりも検討・進めている。

屋井先生：無電柱化という装置・手段を最大限に活かすことによって街づくりを進めていく、今までうまくいかなかった街づくりをもう一度広めるきっかけをつくる手段になりましたね。

Q2：実際に白馬村で無電柱化する場所は？

Answer：さきほどの地図で示した横の道路は県が整備すると決まっていますが、駅前のタテの道路は実際に住民の要望も高い場所です。タテの道も整備していただくよう進めています。あと、実際の景勝地は、実は白馬村と少しずれていています。いわゆるフォトスポットと呼ばれるところですが、絵描きさんは、白馬を描くとき、電線は描かないですが、写真だとそうはいかない。そういうところから進めていけたらと思います。それと、融雪パイプのない場所から。

・東京電力の今村さんへの質問

Q1：皆さんが一番気にしているのが、低コスト化だと思います。従来の電線共同溝ではコストがかかるので、それではない手法も諸外国の例をみれば、場所によっては可能だと考える。今村さんの示された図では、特殊部も随分コンパクトに見えて、期待が大いにもてる。

Answer：右側まではいかないにしても特殊部は少しずつコンパクトにはなっている。特殊部が大きいのは、人が入ることが前提になっているので、人が入らなくて済むような機械を使った作業ができる特殊部をつくっていかないと思っています。

Q2：ケーブルを入れる管もFEP管などのように曲げが効くものできているが、ケーブル自体も曲げられるようにならないのでしょうか。

Answer：ケーブルメーカーとの話になるので、現状は具体的にご説明できない。

・他のパネリストからの意見

Q1：（つくば市の小林さんから白馬村の松沢さんへ）白馬村のきれいな街にしたいという気持ちがすごく伝わってきますが、すごく大変だと思うのですが、そのモチベーションはどこからきていますか。

Answer：さぼりたくてもさぼらせてくれないというのが本音ですが、景観というキーワードを入れれば無電柱化という用語がでるくらいに今はなっています。そこで我々が進めている無電柱化が注目され、三つ・四つ呼ばれている状況です。

Q2：（白馬村の松沢さんからつくば市の小林さんへ）小林さんは、無電柱化担当のかたですが、仕事全体のうち条例制定にどれくらいの割合を費やされたのですか？

Answer：都市計画を中心とした仕事をしているので



無電柱化に携わるのは数%くらいでしょうか。

松沢氏：小林さんのような魅力的な行政マンがおられるのは素晴らしいですね。というのも、私達、白馬村でも無電柱化推進室をつくってほしいのですが、行政担当者が日頃の業務に追われていて（一生懸命やってくれているのですが）、なかなか進みません。このような面もあって白馬村では民間主導で無電柱化を進めています。

Q3：（井上事務局長から東電の今村さんへ）

民間では、小型BOXなど電力会社さんに取り入れてほしいと思っているが、そのような低コスト化に向けた製品を導入していただきたいとき、どのようにアプローチしたらいいですか。

Answer：ここに屋井先生もおられるので分かりやすいかと思いますが、以前、道デザイン研究会（屋井先生が座長）の中の民間ワーキンググループからの提案にもお

答えさせていただきましたが、電力会社・通信会社が現在使用しているものをかえるとき、「こういう製品がある」と提案していただくだけでなく、サンプルをご用意いただいて、検証する現場を設けていただく。その場で実証して、その結果を見てもらうことがいいと考えています。まずはこのようなフィールドを設けるのが一番いいのではと考えています。

■ NPO からの紹介（井上事務局長）

先ほど屋井先生の話にもあつかったと思いますが、資産価値についての書籍を我々も出しております。『電柱のない街並みの経済効果』という本です。

「電柱のない街並みの経済効果」の紹介

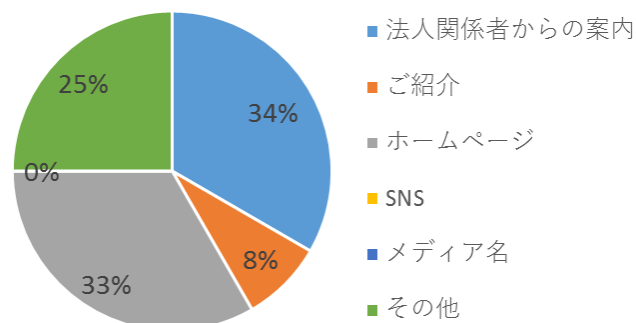
これは、不動産鑑定士の先生と20数年にわたり、無電柱化された住宅地とそうでない住宅地の資産価値を調査したもので、その結果を見てみると、無電柱化された住宅地のほうが4～9%資産価値が高いという結果が出ています。このような結果を詳しくまとめた内容になっていますので、是非お買い求めください。



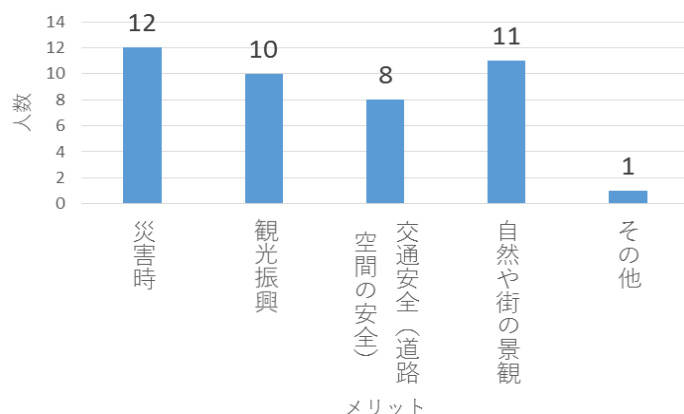
当 NPO では北から南まで、五つの支部（大阪・東京・沖縄・北海道・中部）を立ち上げ、更に地方整備局のある10地区の立ち上げを目標にしております。設立から11年、会員企業様も現在160社になりました。本年行いました名古屋市、金沢市で行いましたシンポジウムをはじめ、本会のようなセミナー、無電柱化された街の視察会や、小学生向けの出前授業、大学生を対象とした出張講義も行っています。最近お邪魔させていただいた大学では、学生の多くが「無電柱化」という言葉を知っているかとたずねると「知っている」と返してくれるようになりました。「無電柱化」という言葉が世間に

浸透してきていることを実感しております。が、しかし、いざ「無電柱化のメリットは？」とたずねると、首をかしげる生徒さんが殆どだったという現実もあります。講義で無電柱化のよさを説明すると、ほとんどの生徒さんが賛同してくれる結果となりますが、このような機会を設けることは非常に大切だと思っております。現在、無電柱化の波は来ていると実感しています。この波をより一層高めるためにも、是非とも当 NPO への入会を切にお願い致します。

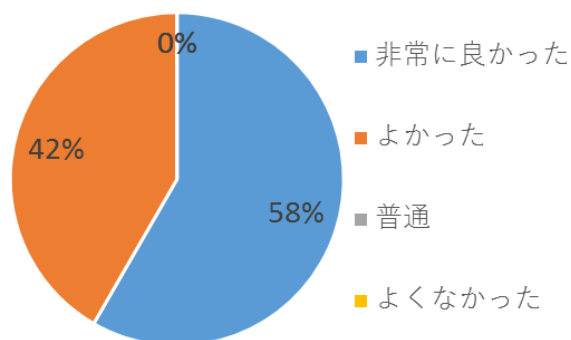
1. このセミナーを何でお知りになりましたか？



2. どのような時に無電柱化のメリットがあらわれましたか？



3. 全体の感想



「美空」に載せてほしい事、調べてほしい事などがありましたら info@nponpc.net までお送り下さい！皆様のご意見をお待ちしています！大阪事務局：塚田・井上 Tel：06-6381-4000 Fax：06-6381-3999 また各種セミナーや活動委員会の日程を会員限定でお知らせできるようにしました。⇒「NPO 会議・イベント案内」。nponpc がパスワードになっています。





無電柱化 出張講義 in 立命館大学

11月28日、立命館大学茨木キャンパスで当NPO井上事務局長が大学生向け出張講義を実施しました。本学の石原教授がご担当されている、都市マネジメント論という講義の一コマを頂いての授業です。

授業終了後に聴講された生徒さんにアンケートを回答していただき、回収しました。

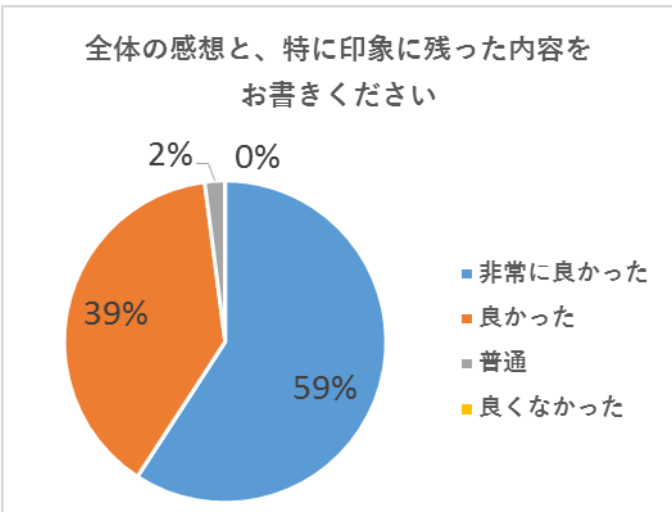
予想外だったのは、多くの学生が無電柱化について知っていたということです。石原先生のご指導もあるので、数年前と比べると隔世の感があります。

彼らのアンケートを拝見すると、その中で多かったのが、「無電柱化は聞いたことがあったが、今回の授業でメリットや災害に強いことなどを聞いて、すぐにでも進めるべきだと思った」という意見が多かったです。

回収したアンケートに多くの感想や意見を寄せていただいたので、主なものをご紹介します。

■ 生徒さんから多く寄せられた意見より

意見1. 海外でこんなに無電柱化が進んでいるとは思わなかった。更にアジアの国々でも無電柱化が進んでお



り、日本はアジア諸国の中でも無電柱化が遅れていることにかなり衝撃を受けている。という意見が非常に多かったです。

それに加えて、ではなぜ日本だけこんなに無電柱化が進まないのか。何か原因があるはずと回答している生徒さんもいました。

意見2. 無電柱化のメリット・デメリットがよくわかって良かった。無電柱化のメリット・デメリットがこんなに多いとは思わなかった。という意見も多かった。

意見3. 電柱は本来、復興を早めるため、仮設で建てられたものだったと聞いて驚いた。

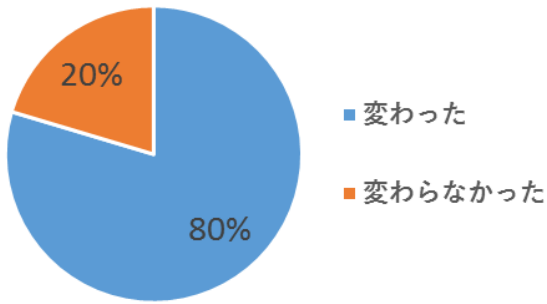
意見4. 費用はかかるが、無電柱化の色々なメリットと掛け合わせると、トータルでは、そんなにかわらないのではという意見も多かった。今年、関西で多く発生した台風などの自然災害（今回の写真を見て、無電柱化の必要性を感じたという意見もあった）や先日決定した大阪万博などの整備事業や経済効果も回答に影響しているようです。

「大阪府内で（当NPOと連携している）無電柱化を推進する市区町村長の会に入っている自治体が少ないのが問題だ」と指摘する意見もあった。

意見5. あと防災面で無電柱化は大事だが、景観面でも無電柱化をすべきだという意見が意外と多かった。スライドで他の諸外国の無電柱化された街並みを見せたこともあったのか、電柱・電線の煩わしさを日頃、直接肌身に感じる人が多いからなのか。

また、無電柱化された土地のほうが、不動産価値が高いことを初めて知ったという意見もあった。

「無電柱化」についての講義を受ける前と後で考え方は変わりましたか？



意見6. 井上事務局長の講義の内容から共感したのかもしれませんが、無電柱化を進めるには「住民との合意形成（無電柱化への理解）」が必要だと回答する生徒さんも多かった。

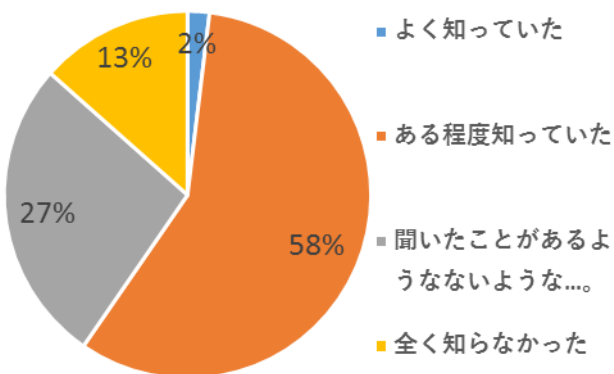
これに派生する意見として、「行政の取り組みも大事だが、住民が積極的に協力するという姿勢をみせることも必要だ」という意見もあった。

意見7. 大阪の道路の狭さ（大阪に限らず日本の道路の狭さ）を指摘する生徒さんも多かった。「大阪では狭い道が多いので、安全面から考えて無電柱化は必要だが、それに比例してコスト高とやかましい住民が課題だ」としている生徒さんもいた。

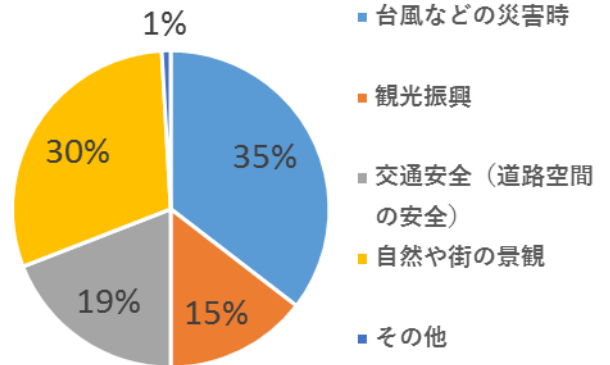
上記の意見の他にも、「現在、有効幅員 2.5m以下の市町村道が 94%ということが影響しているのでは」と、具体的に数値をあげて、アンケートに回答している生徒さんもいた。

都市景観論の生徒さんの意見らしく、「ベビーカーや車椅子なども含めて、歩行空間の確保が必要だ」という

「無電柱化について知っていましたか」講義前



大阪府内ではどういときに無電柱化のメリットがあると思われましたか？



意見もあった。無電柱化と並行して、日本の道路の構造上の問題を指摘する意見が多かったのには、逆に私自身が勉強になった。

見8. その他の意見として、講義の内容が濃くて消化不良なところがあった（2回に分けて講義してほしい）という意見もありました。90分の講義としては、非常に内容の濃いものだったかと思います。

以上、簡単にまとめてみました。

上記の内容を総括させていただきますと、都市マネジメント論という授業の一環ということもあり、受講されている生徒さんの無電柱化に対する意識が高かったということ、また、井上事務局長の投げかけた質問や課題に対してきちんと消化している生徒さんが多かったこと、また、投げかけられた課題に対して、更に疑問点を抱き、追及したいと回答されている生徒さんが多かったことが印象に残りました。講義を拝見して、あと一コマ授業を追加して、突っ込んだ内容を講義に加えるとともに、無電柱化に対して更にメリット・デメリットを追及させるディベートを生徒さんにしてもらってもいいのではと思いました。更なるいい意見が出そうな気がしました。



トークセッション中の学生と井上事務局長

ホームページでも、最新の情報を詳しく掲載しています。
フェイスブックも連動して、更新させていただいています！

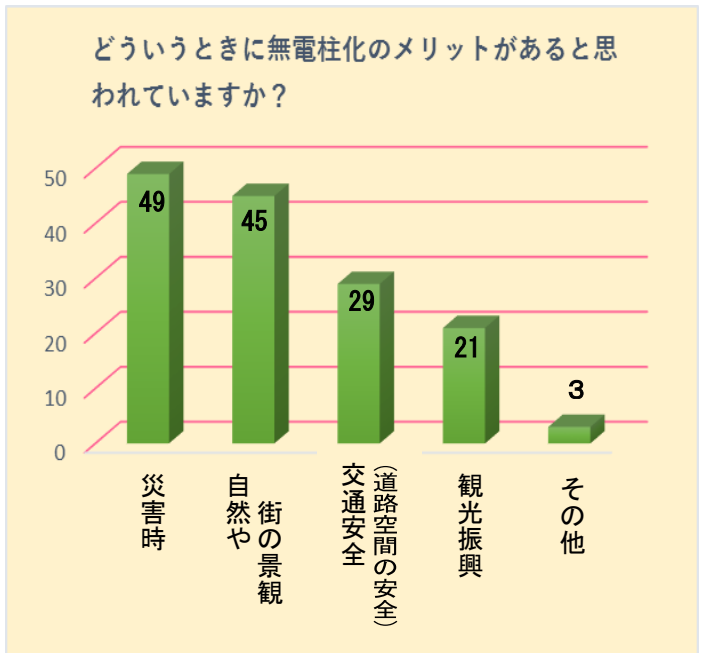
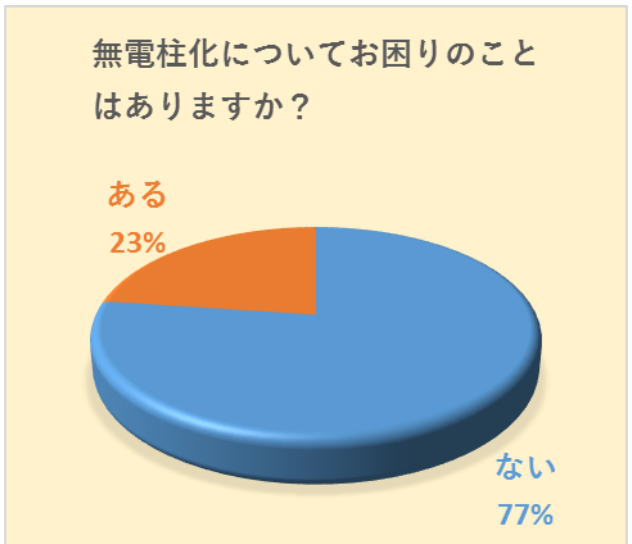
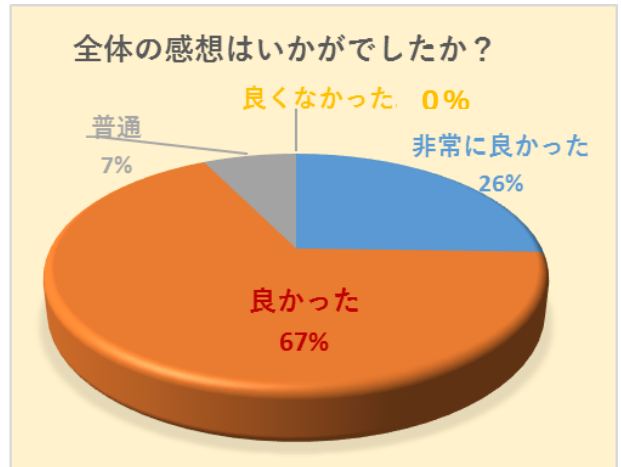
<http://nponpc.net/>

<http://www.facebook.com/NPONPC>

無電柱化推進セミナー in 北海道



12月7日、札幌市のホテル札幌ガーデンパレス 2階丹頂の間において、無電柱化推進セミナーが開催されました。当日は、前日からの悪天候にも関わらず160名以上の参加者が来場された。講演は、11月20日の東京活動委員会に引き続き、東電設計の野田部長様をお願いしました。そこでとりましたアンケートの結果をご報告します。



アンケートの内容の具体的な内容にも言及したいと思います。アンケートでの回答に「やはり無電柱化は進めるべきだ」と書いておられる参加者が沢山いました。とはいえ、それを実際に進めていくとなると、課題は山積みようです。アンケートの結果から具体的にあげていくと、

意見①：北海道の地中化事業は**冬期に集中（冬期にかかる）**してしまうため、整備延長が伸びにくい状況がある。その対策を教えてください。事務手続きに要する期間が長い。

北海道の電線共同溝設備・整備事業は、概ね9月以降の着工～3月末完了となっている。**4月上旬～8月下旬の一番施工がしやすい時期の有効活用（年間施工）がキモであると思う。**

意見②：柱状トランスに興味をもたれた方が多かった一方で、積雪が多い場合の自動車との衝突などのトラブル（保障）が気になるとの意見があった。

▶柱状変圧器について、道路照明との兼用とのことだが、交通事故で倒壊した場合の加害者への対応は問題ないか教えてください。

▶転倒対応として特別な強度対策・補強などを行っているか？

▶地上機器樹は大きいのに、柱状に設置できるなら、そもそも**地上機器樹ももっと小さくできるのでは？**

意見③：地上機器に関する意見はやはり多く、民地利用や歩道内のスペースがない沿道利用に興味を持たれるか

たが多かった。

合せて、地上トランスの設置場所も気になるとの意見も多かった。除雪対策をあげる意見も多かった。

▶地上機器（電線類地中化全般として）については、地震や液状化に弱いのではと不安視する声も多かった。

意見④：東京での事例を聞いて大いに参考になったという意見をいただいた一方で、北海道では、当てはまらないのでは？ 北海道に即した事例も紹介してほしいという意見も寄せられた。寒冷地対策や地中化後のメンテナンスは大丈夫かという意見があった。

意見⑤：幹線道路よりも、民地を優先したほうがいいのではとの意見もいただいた。

意見⑥：低コスト事例をもっと紹介してほしい。ノウハウが不足している。

意見⑦：**人材不足。マンパワーの不足**が深刻との意見も多かった。

今回いただいたアンケートの回答は、北海道特有の問題とともに、全国規模でも通ずる課題も多くあげていただきました。貴重なご意見をいただきありがとうございます。

北海道セミナー、個別意見の集約（複数回答）

